



7月22日(火)より 夏期講座 START!!

夏期講座は、学校の授業がストップしている夏休みを利用して、今までの総復習を行うとても大切な講座です。受験生にとっては、勝負の夏であり、他の学年も今までの学習の抜けを補っておく必要があります。夏期申込書を6月26日(金)までに、ご提出をお願いいたします。



湯浅先生からの挑戦状

【今月の問題】

いらない部分を取り除き、横に7を作るように並べれば正解！
その後、棒を「 27×37 」や「 $9 \times 1 \times 111$ 」と動かせば正解！
このほかにも解答例はあります。先生に確認してみてくださいね。

【今月の問題】

次の等式に線を1本加えて成り立たせなさい。

$$1 \div 100 = 100$$

今月のTOPIX ~2016年度入試の注意点~

今回は、2016年度入試の注意点について紹介していきます。

【センター試験】

2016年度入試では、国語、地理歴史、公民・外国語が新課程対応になります。しかし、センター試験では2015年度の旧課程履修者のための別問題を出题する措置は行わないことが発表されています。ただし、「工業数理基礎」については旧課程履修者のために2016年度に限り経過措置として出题されます。これは、新課程履修者は選択することが出来ません。センター試験の2015年度と2016年度の出題範囲の比較を、国語、地理歴史・公民、英語について右の表にまとめています。

◆国語

新課程の国語では「国語総合」が必修とされており、センター試験でも「国語総合」が出题されます。なお、2012年5月に発表された「平成21年告示高等学校学習指導要領に対応した平成28年度大学入試センター試験からの出題教科・科目等について」では、「大学入学者選抜の継続性に鑑み、現行の大学入試センター試験の難易度と同程度の水準とする」とされており、2016年度のセンター試験ではないように大きな変更はない模様です。

◆地理歴史・公民

地理歴史では、「世界史A」、「世界史B」、「日本史A」、「日本史B」、「地理A」及び「地理B」、公民では「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」及び「倫理、政治・経済」が出题されますが、大きな変更点はないものと思われます。それぞれの科目のすべてを出題範囲とするとされています。地理歴史及び公民についても2016年度も引き続き2015年度と同じような内容の出题がされる見込みです。

◆英語

英語は、新課程では「コミュニケーション英語Ⅰ」が必修とされていますが、『我が国において外国教の重要性がますます増していることに鑑み、必修教科目である「コミュニケーション英語Ⅰ」に加えて「コミュニケーション英語Ⅱ」及び「英語表現Ⅰ」を出題範囲とする』としています。したがって、従来よりも会話を中心とした設問が増える可能性も考えられます。

センター試験の2015年度と2016年度の出題範囲の比較

教科	2015年度		2016年度	
	出題科目	出題方法等	出題科目	出題方法等
国語	「国語」	「国語総合」、「国語表現」の内容を出題範囲とし、近代以降の文章、古典(古文、漢文)を出題する。	「国語」	「国語総合」の内容を出題範囲とし、近代以降の文章、古典(古文、漢文)を出題する。
地理歴史	「世界史A」	「倫理、政治・経済」は、「倫理」と「政治・経済」を統合した出題範囲とする。	「世界史A」	「倫理、政治・経済」は、「倫理」と「政治・経済」を統合した出題範囲とする。
	「世界史B」		「世界史B」	
	「日本史A」		「日本史A」	
	「日本史B」		「日本史B」	
公民	「地理A」	左記出題科目の10科目のうちから最大2科目を選択し、解答する。ただし、同一名称を含む科目の組合せで2科目を選択することはできない。	「地理A」	左記出題科目の10科目のうちから最大2科目を選択し、解答する。ただし、同一名称を含む科目の組合せで2科目を選択することはできない。
	「地理B」		「地理B」	
	「現代社会」		「現代社会」	
	「倫理」		「倫理」	
外国語	「政治・経済」	左記出題科目の10科目のうちから最大2科目を選択し、解答する。ただし、同一名称を含む科目の組合せで2科目を選択することはできない。	「政治・経済」	左記出題科目の10科目のうちから最大2科目を選択し、解答する。ただし、同一名称を含む科目の組合せで2科目を選択することはできない。
	「倫理、政治・経済」		「倫理、政治・経済」	
	「英語」		「英語」	
	「ドイツ語」		「ドイツ語」	
	「フランス語」		「フランス語」	
	「中国語」	「中国語」		
	「韓国語」	「韓国語」		

出典：大学入試センターホームページ

【その他の変更点】

一般入試ではありませんが、東京大で「推薦入試」が、京都大で「特色入試」がそれぞれ導入されます。これにより、一般入試の募集人員が削減されます。

東京大の「推薦入試」は11月に願を受け付け、書類審査を通ったもの(募集人員の2~3倍程度)が面接を受けることとなります。その上で、センター試験を受験した後に最終合格者が発表されます。

京都大の特色入試は、学部ごとに選抜方法が異なりますが、志願者が提出する「学びの設計書」が評価の対象となり、そのほかに面接・論文試験などとセンター試験の成績により選抜が行われます。

このような、新しい形の入学選抜を探り入れようとする動きは、他の国公立大学にも広がりがつつあります。

すでに大阪大は2017年度から「世界適塾入試」を実施することを発表しています。これらの大学を含めた今後の動きにも注目していきましょう。



★★ 日々の様子や取り組みを公開中 ★★

進学塾アクシア ブログ 検索

<http://ameblo.jp/axia-hiroshima/>